

---

---

2008 年度（平成 20 年度）

# 事業報告書

平成 21 年 5 月 22 日

学校法人 玉手山学園

---

---

# 学校法人玉手山学園 平成20年度 事業報告書

(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)

## 1 はじめに

平成20年度は、改正教育基本法(H18.12改正)の理念に基づく「教育振興基本計画」が策定され、危機に瀕しているわが国教育の再生・復興を期し、これからの10年間のわが国教育のあり方が具体的に示されました。「学校教育力の向上、教育の質・確かな学力の保証、社会全体で子どもを育てる」など教育基盤から建て直す多くの提言がなされています。学校界はもちろん、家庭・地域・職場・公共社会・“ネット社会”など、国民一人一人が自覚し国家総力をあげて教育再生・復興に本気で取り組まねば、わが国の豊かな未来はないといっても決して過言ではありません。

さて昨平成20年度も、本学園は「常に魅力ある学園、社会に必要とされ、社会に貢献し得る学園を目指す」という運営基本方針のもと、各校園の教育目的・目標、事業計画の達成に総力を結集してまいりました。

生き残りを賭けた熾烈な競争環境の中、学園の一層の発展向上を期して「08版 学園中長期計画(学園70周年記念事業)」を策定、FD活動(教育力向上)推進、教職員人事評価制度、学園施設転共用、短大5号館増築工事着工など「学園力向上」に向けた多くの事業を展開いたしました。とりわけ学園の主役である学生・生徒・園児たちの活躍は、学園のすべてのものに「やればできる!」という希望・元気・勇気を与えてくれました。

学生・生徒らにより結成された玉手山学園吹奏楽団によるK'sコンサートを開催、幼稚園柔道クラブでの見事な「形」の演技披露、高等学校でのこれまでにない素晴らしい大学合格実績、専門学校理学療法士(PT)、作業療法士(OT)、短期大学歯科衛生士のそれぞれの国家試験合格100%達成(全国平均は決して100%ではなく年々低下傾向)、大学社会福祉士国家試験に149名合格、管理栄養士53名合格(ともに本学過去最高数)、養護教諭22名正規採用(関西一)など素晴らしい力を発揮してくれました。学生・生徒・園児たち、そして彼らを、情熱を持って支援した学園教職員のご努力に敬意を表し感謝申し上げます。

建学の精神『感恩』のもと学園の使命、各校園の教育目的・目標の達成を目指し、教育人・私学人として“学生・生徒・園児たちを伸ばす”という基本的責務の遂行に喜びと誇りを持って情熱を燃やし続ける、これこそがわが玉手山学園の誇れる教職員魂であります。学園教職員そして学生・生徒・園児たちが総力を結集させて遂行した平成20年度の教育事業を以下にご報告いたします。

平成21年5月22日  
理事長 江端源治

## 建学の精神「感恩」

建学の精神「感恩」の原型は、人間のおよび得ない存在への畏敬の念と、生かされてある不思議を原点に、人はみな有形無形の数々の恩恵を享受し今日の自分がある。この厳粛にして偉大なはからいに目覚め、湧き起こる深い感動と感謝の念から発する情熱をもって行動するとき、われわれは人々に幸せをもたらすことができる。

## 学園の使命

建学の精神「感恩」を体し、人間の絆に目覚め、感動と感謝の念から発する情熱をもって人に幸せをもたらし、社会に貢献し得る人材を育成し、幸福・平和で豊かな社会の構築に寄与する。

学園の各校園はこの崇高な使命を全うするため、それぞれの教育目的・理念のもと具体的な教育目標を掲げ、その達成に総力を結集し、「教育」に邁進する。

## 学園職員の責務

### 教育人として

- ・人類の未来を拓く「知」の継承・伝達と創造・発展に努め、次代を担う有為な後継者を育成する
- ・「教育力の向上」に努め、「良質の教育サービス提供」に徹する
- ・学生、生徒、園児の持てる力をひきだし、伸ばし育てる
- ・学園に学ぶものに「入学してよかった、卒業してよかった」の満足感をもたらす
- ・教育人としての自覚のもと、喜びと誇りを持ってその責務・使命の遂行に情熱を燃やす

### 組織人、私学人として

- ・学園および各校園の使命、経営方針、教育目的・目標の理解・堅持に努め、その達成に貢献する
- ・組織人としての自覚、連携・協調を重んじ自己の責務・役割を果たす
- ・学園教職員、私学人であることに喜びと誇りを持ち、自己の能力および人格の向上に努める

## 平成20年度 学園運営基本方針

常に魅力ある学園、社会に必要とされ、社会に貢献し得る学園を目指す

1. 学園の使命、教育目的の確かな理解・共有の推進  
各校園の教育目的・目標の再確認(点検)、共有、実践
2. 全職員の職責への自覚と「学園教職員魂」の高揚・実践
3. 「教育力」の向上  
職員の資質・能力、人格の向上、意欲・情熱の高揚を図る  
教育に情熱のない教職員に接しられる学生は不幸である
4. 学生・生徒・園児の満足度向上  
「入学してよかった、卒業してよかった」の満足感につなぐ
5. こころ豊かな学風確立、学校愛・母校愛の醸成  
建学の精神「感恩」の浸透推進 「あいさつ」励行、マナー向上
6. 「学び」を支える学園環境、施設・設備等の充実
7. 継承・発展と改革を支える強く健全な財政基盤の確立・堅持

## 2 法人の概要

### 1 設置する学校

- |                   |                                |   |
|-------------------|--------------------------------|---|
| (1) 関西福祉科学大学      | 社会福祉学部<br>健康福祉学部<br>社会福祉学研究科   | 社会福祉学科 臨床心理学科<br>健康科学科 福祉栄養学科<br>臨床福祉学専攻(博士課程・前期/後期)<br>心理臨床学専攻(修士課程) |
| (2) 関西女子短期大学      |                                | 保育科<br>保健科<br>歯科衛生学科  |
| (3) 関西福祉科学大学高等学校  | 全日制課程                          | 普通科   |
| (4) 関西女子短期大学附属幼稚園 |                                |   |
| (5) 関西医療技術専門学校    | 医療専門課程<br>社会福祉専門課程<br>商業実務専門課程 | 理学療法学科 作業療法学科<br>介護福祉学科 介護福祉専攻科<br>診療情報管理学科<br>診療情報管理専攻科              |

### 2 学部・学科等の入学定員、学生・生徒・園児数の状況

(人)

	入学定員	編入学 定員 (3年次)	収容定員	H20 現員 (H20.5.1)	定員充足率 (現員/収容定員)	(ご参考) H21.現員 (H21.5.1)
<b>大学</b>						
社会福祉学部	340	60	1480	1849	1.24	1698
健康福祉学部	170	15	710	773	1.08	706
社会福祉学研究科	33	—	69	62	0.89	57
<b>大学計</b>	<b>543</b>	<b>75</b>	<b>2259</b>	<b>2684</b>	<b>1.18</b>	<b>2461</b>
<b>短大</b>						
保育科	130		260	213	0.81	205
保健科	70		140	207	1.47	190
歯科衛生学科	100		300	312	1.04	307
<b>短大計</b>	<b>300</b>		<b>700</b>	<b>732</b>	<b>1.04</b>	<b>702</b>
<b>高校</b>	<b>470</b>		<b>1410</b>	<b>529</b>	<b>0.37</b>	<b>525</b>
<b>幼稚園</b>	<b>—</b>		<b>495</b>	<b>428</b>	<b>0.86</b>	<b>417</b>
<b>専門学校</b>	<b>240</b>		<b>500</b>	<b>298</b>	<b>0.59</b>	<b>280</b>
<b>総合計</b>	<b>1553</b>	<b>75</b>	<b>5364</b>	<b>4671</b>	<b>0.87</b>	<b>4385</b>

※高校は学則上の定員(H20年度生の公表募集定員は240人)

### 3 役員・教職員の人数(平成21年5月1日現在)

#### (1) 役員

理事 9人 (うち、理事長1人、常勤理事6人)

監事 3人 (うち、常勤監事0人)

#### (2) 専任教職員数

(人)

	H21 年度			H20 年度	前年度比
	教員	職員	計	計	
大 学	90	50	140	137	3
短 大	31	14	45	42	3
高 校	43	7	50	51	△1
幼 稚 園	19	5	24	26	△2
専 門 学 校	22	9	31	33	△2
法 人	0	1	1	2	△1
法人本部	0	28	28	28	0
計	<b>205</b>	<b>114</b>	<b>319</b>	<b>319</b>	<b>0</b>

(H21.5.1 現在)

## 3 事業の概要

### ■ 主な事業内容および進捗状況

#### 関西福祉科学大学

##### (1)教育研究環境の改善

- ・短大5号館の増築  
平成21年2月に短大5号館増築工事着工、平成21年10月竣工予定。看護演習室、看護実習室、試食実習室、調理実習室、音楽練習室等の大学教学関連施設を設置予定。
- ・新校舎建築の継続調査  
既存の大学講義室の稼働率調査を実施。学園中長期計画における「新棟建築(大・短)」構想に移行する。(H23秋竣工を目指す)
- ・学園内施設転共用の検討  
高校2号館1階多目的室を大学教室兼国試等受験対策用自習室(計6室)に転用(H20.8改修工事完了)。その他学園2号館6階講義室を管理栄養士国試対策用自習室へ用途変更。
- ・授業環境設備の改善  
演習教室の視聴覚機器等の機能向上や実習用機器の充実(H20.9完了)を図った。
- ・教員の教育研究活動の支援  
科研費説明会を2回開催、研究費専用掲示板の学内4箇所設置など、教員の科研費申請の促進を図った。
- ・学生キャンパスライフ環境の改善  
待望の学内売店(コンビニ等)「丸善キャンパスショップ」を大学本館1階に設置(H21.4オープン)、また学園食堂改善委員会に福祉栄養学科の学生、教職員とともに主体的に参画、快適「食」の創造に取り組んだ(H20スタート、現在継続中)。
- ・教育支援ITシステムの導入と活用  
平成20年度は導入に到らず。実用価値、利用頻度、定着率等の向上になお検討の余地あり。平成21年度も今後の有効な導入に向けて引き続き準備・検討を加えていく。

##### (2)大学認証評価

(財)日本高等教育評価機構において、平成20年度大学機関別認証評価を受審した。平成20年6月末に「自己評価報告書」を同機構へ提出、11月4日から6日の3日間に亘り、実地調査が実施され、同機構が定める大学評価基準を満たしているとの「認定」を受領(認定期間は平成20年4月1日から平成27年3月31日)。

##### (3)教員評価制度の実施

今年度より「教員人事評価制度」を本格導入、「教員人事評価規程」も制定した(H21.1)。大学教員の勤務態様の特殊性により評価方法や面談の実施など課題も多いが、教員の資質・能力、やる気・意欲の向上そして大学の教育目的達成に向けて一層の定着を図り、実効ある運用に向け実践しながら改善に努めていく。

##### (4)教育活性化の推進

「新任・昇任教職員研修会」、「授業公開」、「FD研究会」、シラバスの充実などFD活動を全学的・組織的に精力的に実施した。また学生の修学意欲向上に向け、「基礎演習」の授業内

容の充実および全学的再確認に取り組んだほか、「人間力」涵養を目的に平成 21 年度開講に向け「総合コース」の開設準備を行った。今後は、平成 21 年度より新設する「教育開発支援センター」が主体となって、更なる教育力向上に資するべく、具体的施策に取り組んでいく。

また、平成 21 年 3 月 16 日から 22 日にかけて、大学として初めてのデンマーク海外研修旅行を実施し、13 名の学生が参加し実り多い研修となった。この他、学生に対して建学の精神、大学の使命、教育目的等の共有・定着を図ると共に、「笑顔」、「挨拶」、「心優しいマナー」の推進に努めた。

#### (5)カリキュラムの検証と改革

社会福祉学科においては法改正に伴うカリキュラムの改革を、福祉栄養学科では管理栄養士指定科目と卒業要件に関するカリキュラムの変更を行った。次年度以降は「中長期計画」に沿って大学全体に亘る総体的視野に立ち、教育目的を達成するための効果的なカリキュラムの構築、改革に取り組んでいく。

#### (6)大学「中長期計画」の策定

大学の一層の発展向上を期して学園中長期計画と連動し、大学「中長期計画」を策定した(H20.11 理事会承認)。既設学部学科のコース編成、学部新設、大学院研究科増設、新棟建築など、毎年改善を加えながら鋭意計画を推進させていく。

### 関西女子短期大学

#### (1)教育研究環境の改善

- ・授業環境設備の改善：講義室の視聴覚機器を中心に、機能向上に取り組んだ。また、第 2 歯科臨床実習室の AV 装置の改善、マネキン実習室のメンテナンス、音楽室の改善・整備、美術室を除く全教室のホワイトボード化を実施し、学生の授業環境の改善を図った。
- ・教員の教育研究活動の支援：科研費説明会を 2 回開催し、教員の参加の増加を図った。また、研究費専用の掲示板を学内 4 箇所に設置し、運用を開始した。
- ・学生キャンパスライフ環境の改善：下宿情報の提供資料に改善を加え、柏原市に焦点をあてたものを新入生に配布した。また、大学本館 1 階に「丸善キャンパスショップ」の設置工事を着工・完了し、4 月より正式オープンとなった。
- ・教育支援 IT システムの導入と活用：より効果的な導入にすべく、そのあり方を再検討した。平成 21 年度も最善の状況での導入できるよう引き続き更なる検討を加えていく。
- ・短期大学の校舎計画の調査：建物竣工日・耐用年数、修理履歴、ならびに講義室の稼働率の調査を終え、現状把握を完了した。また、これらの調査に基づき関係部署からのヒアリングを実施するとともに、その調査報告書を作成した。

#### (2)教員評価制度の実施

今年度より「教員人事評価制度」を本格導入した。制度の導入に際しては「教員評価制度運用マニュアル(大学・短大教員)」を整備したほか、「教員人事評価規程」を新たに制定し、評価の適正化に努めた。今後は制度の一層の定着を図るため、運用の過程で発生する事項についての判断例の集積を行う。

#### (3)地域交流プログラムの実施

保育科においては、地域の保育現場や病棟保育でのボランティア参加や学内での子育て支援活動を行ったほか、「保育総合フェスタ」や「救急救命講習会」、「合唱講座」等を開催した。

また、保健科では不登校児童・生徒の支援や地域と連携した健康教育を実施し、歯科衛生学科では柏原市ホットステーションとの連携で歯磨き教室等のプログラムを実施した。

#### (4)FD 活動の推進

全教員を対象とした「新任・昇任教職員研修会」、「FD 研究会」、「授業公開」の開催や、「自己啓発シート」を通じた授業方法の自己点検等、種々の授業改善に関する取り組みを企画・実施した。これらの活動は報告書としてまとめ、学内での共有に努めた。

#### (5)リカレント教育の充実

保育科では、第 6 回夏季セミナーを実施し、近隣幼稚園や保育所（園）の保育者、地域住民、在学生らに子育ての最新情報を提供した。また、保育科教員主導の下、幼稚園、卒業生、在学生の 4 者で構成する「乳幼児保育研究会」の運営に着手した。保健科では、教員採用をテーマとした対策講座やスキルアップ講座等を実施したほか、卒業生に対して関西福祉科学大学で開催された教員免許状認定講習会を積極的にアナウンスし、受講を奨励した。歯科衛生学科ではリフレッシュ講座を開催し、歯科衛生士を取り巻く情勢の教授と最新技術の修得を目的としたスキルアップ講座を実施した。また、短期大学全体として、平成 21 年度の「免許状更新講習」（養護教諭及び幼稚園教諭対象）の開講に向けた準備を行った。

#### (6)カリキュラムの検証と改革

歯科衛生学科においては法改正に伴い、再構築した新カリキュラムを平成 20 年度よりスタートさせた。当面は現カリキュラムを施行する予定だが、他学科を含め短期大学の「使命」、学科・コースの教育目的・目標を達成するためにも、引き続きカリキュラムの構造化や授業科目の精選を行っていく。

### 関西福祉科学大学高等学校

#### (1)教育改革の推進

本校の建学の精神「感恩」の額を全教室に掲げ、その精神の一層の徹底を図るため担任による日頃のクラス指導を中心に、校長の全校講和にも取り上げ徹底に努めた。

平成 18 年度に教育改革の中心として特別進学Ⅰコース、特別進学Ⅱコース、総合進学コースの 3 コース制とした。生徒達が確実に希望する進路につけるよう 3 コース制としたが、その第 1 期が卒業し確かな成果を示した。今後さらに、この成果を向上発展出来るよう取り組んでいく。

#### (2)教職員の教育力アップ

教職員の教育力を高めることはまず自らの姿勢が大切であるが、教職員の研修に臨む姿勢はかなり高まり、各教科での「研究授業」、「進路指導部からの目標提示・分析・研究」等とそれぞれの分掌で検討し組織的に実行するようになった。

「授業アンケート」「高校生活満足度調査」等の生徒からの意見を大切にして、具体的な解決を図る努力を継続していく。

さらに、「新人事評価制度」の実施により、より効率的な教育活動に繋げていく。

#### (3) 生徒の生活・学習についての重点指導

生徒の基本的な生活習慣については入学直後の指導が大切であり、学校を「休ませない・遅刻させない」授業では「チャイムで席に着く」「私語しない・寝ない」、制服を「正しく着用」する基本的なことを伝え指導する。

これらのことは、生徒指導部を中心とする指導によりかなり浸透してきたが、さらに全教職員で行うことの努力を進めていく。

#### (4)行事の見直し

修学旅行の目的地(海外)を中心に検討している。しかし、国内外の状況の変化が激しいこともあり思い切った決定に至っていないが、広い視野と長期の展望を持って検討していく。

#### (5)校内施設の整備と充実

生徒の安全と教育活動の充実を図るために引き続き改善を図っていく。トイレの整備には、洋式便器の導入とウォシュレットの設置、自動手洗い等を進めた。さらに、来客が多いことから応接室の増設を図った。

### 関西女子短期大学附属幼稚園

#### (1)大私幼 東大阪支部での公開保育の実施<教育研修の充実>

- ・ 公開保育という大きな目標に向け、各方面の研修会や講演会等、積極的に参加し、また園内研修での勉強会等で、保育技術、能力の向上と教員のスキルアップとなった。
- ・ 大私幼東大阪支部での公開保育を実施することができ、大阪府内の幼稚園教諭だけでなく、関西女子短期大学保育科の学生、並びに大学、短大、保育専門校等の教授、講師等の多数の方々の参加を得ることができた。

#### (2)文部科学省よりの委託事業による実践校(園)としての活動及び研究

- ・ 2年目を迎え、プログラムの実施中。<運動量や体力測定等、継続中>
- ・ 運動への積極的な関わりが増え、除々に成果が表れている。

#### (3)園内外の環境整備

- ・ 予定の事業(環境整備)は年度当初に完成し、活発な園児の活動が見られた。

#### (4)満3歳児保育の促進

- ・ 昨年度以上の回数を実施し、リピーターも多く、毎月の参加を心待ちにして頂いた。
- ・ この体験を経験し、満3歳児クラス(ひよこ組)には、24名の入園者があった。

#### (5)教員人事評価制度の実施

- ・ 年度当初に自己の目標を定め、その目標に向かい努力でき、また、年度末には個々に評価、反省することで、今度の新たな目標の指針となった。

#### (6)広報活動の促進

- ・ 常に最新の情報を発信することが大切であることをモットーに、予定していた事業はすべて完了できた。

#### (7)通園バスの増設

- ・ 通園バスを増便し、香芝地区を巡回し、除々に入園者が増えているが、更に成果を得るために積極的なアピールが必要である。

#### (8)課外活動の増設

- ・ 女子向きの課外活動が少なかったため、キッズファンクダンスの開設は、園児だけでなく、保護者にも喜ばれた。
- ・ 課外活動として、体操教室を平成 21 年 4 月より開設できた。

### 関西医療技術専門学校

#### (1)教育力向上のための取り組み

教育力の向上のために、全教職員を対象として学内勉強会（年間 5 回開催）、学術大会（平成 21 年 2 月 8 日開催）を実施した。これらは平成 19 年度から開始され、次年度以降も継続実施する予定である。加えて教職員自ら自己研鑽に励み、各種専門団体が主催する学会・研修会等に積極的に参加できる環境作りに務め、ほぼ予定のとおりに参加できた。

#### (2)学生の資格獲得と就職への支援

平成 20 年度卒業生全員に関して、国家資格獲得を志す学科においては、理学療法士 100%・作業療法士 100%国家試験合格、介護福祉士 100%国家資格取得を達成した。民間資格獲得を志す学科においては、診療情報管理士、医療情報技師、医療秘書など、それぞれのめざす資格を獲得できた。

本校診療情報管理専攻科へ進学した者および関西福祉科学大学社会福祉学部へ進学した者を除き、就職希望者の就職率は 100%であった。

#### (3)学生の要望の把握と次年度学生への還元

平成 20 年度在学生全員を対象として、平成 20 年 1 月に「授業評価アンケート調査」、「自己評価アンケート調査」、「学生生活満足度調査」を行った。集計結果は、平成 21 年 3 月 28 日に開催された講師会議（非常勤講師を含む）において各講師に報告し、次年度講義方針の検討資料としていただいた。また、改善を要する事項については関係方面に改善方を働きかけた。学生には集計結果と改善状況とを掲示・公表した。当調査は過去 4 年間継続実施しており、評価も全体的に向上傾向を示している。

#### (4)志願者増加対策と入学予定者の勉学動機維持向上対策の実施

遠隔地の志願者が受験し易い環境づくりや入試形態の多様化について一層の工夫を加え、新たな志願者層の開拓に努めた。即ち、これまでの学生募集活動に加え、AO入試の実施、指定校推薦入試の拡充、オープンキャンパス参加者への交通費補助、医療事務・介護福祉の「実務体験セミナー」開催など各種の施策を実現し、一定程度の志願者数の維持に成功した。また、本校への入学予定者の勉学動機の維持・向上をめざして、平成 21 年 1 月 25 日ならびに 3 月 1 日に入学前セミナーを実施し、多数の参加者をえた。

### 法人本部

#### (1)中長期計画の策定(平成 24 年度 学園創立 70 周年に向けて)

- ・ 新設した経営企画室がとりまとめ、各学校園の中長期計画を盛り込んだ「'08 版学園中長期計画」を策定し、理事会承認を得た。
- ・ 法人本部は「学園運営目標管理の定着」「学園創立 70 周年記念行事の PJT 立上げ」「中期

資金計画の作成」「新人事制度の定着」「研修制度の確立」「施設設備の整備」等 14 項目を策定した。

## (2) 経営企画室の設置

- ・経営企画室を学園本館 5 階法人本部内に 7 月 1 日付で設置(室員 5 名(室長 1 名含む))
- ・業務内容
  - ・「学園運営目標」の取りまとめ
  - ・「学園中長期計画」の取りまとめ
  - ・幼稚園マーケット分析
  - ・大学コース編成計画への共同作業着手

## (3) 新人事制度の定着化

- ・職員は評価結果を処遇へ反映(昇給・賞与)
- ・教員の new 給与制度の仕組みについて説明会を実施
- ・評価制度、new 給与制度に係わる規程を新設
- ・評価者対象の研修会を実施

## (4) 施設設備の有効活用と充実

- ・高校 2 号館校舎 1 階部分を大学自習室に転用し、有効利用を図った
- ・短大 5 号館の増築工事
  - 実習施設など大学が不足している施設充実のため短大 5 号館の増築工事を着工した。平成 21 年 10 月中旬完成予定。
- ・学園総合体育館の活用促進
  - DO' 夢でのイベント(救急救命講習会、ヘルシーオープンコンペ、バレーボール大会、柔道大会等)を実施。

## (5) 職員の能力開発・レベルアップ

- ・教職員を対象に学内知財を活用した学内研修会を本年度は 6 回実施
- ・新人事制度の 1 次評価者(職員・教員)対象の研修会実施
- ・事務職員管理職対象の労務管理研修会実施
- ・SKK セミナー等学外研修へ積極的に参加した

## ■ 平成 20 年度決算の概要

## A【資金収支計算書】

## (1)収入の部

納付金収入は、学生・生徒数が前年度と比べ幼稚園を除く大学、短大、高校、専門学校で減少したため、予算費 68 百万円、前年度比 100 百万円減少の 4,442 百万円となった。

手数料収入は、志願者数減少により入学検定料収入が予算比 28 百万円、前年度比 17 百万円減少の 79 百万円となった。

補助金収入は、予算比 47 百万円、前年度比 7 百万円の増加の 624 百万円となった。

寄付金収入は、特別寄付金の増加により前年度比 6 百万の増加の 14 百万円となった。

資産運用収入は、寄付行為に基づく定期預金による、より良い金利の金融商品による運用により予算比 4 百万円、前年度比 11 百万円増加の 73 百万円となった。

事業収入は、補助活動事業収入及び受託事業収入の増加により予算比 11 百万円、前年度比 7 百万円増加の 72 百万円となった。

雑収入は、退職金財団からの交付金収入により予算比 49 百万円、前年度比 24 百万円増加の 74 百万円となった。

前受金収入は、学生・生徒・園児の入学者数の減少により予算比 74 百万円、前年度比 147 百万円減少の 788 百万円となった。

収入全体では予算比 51 百万円、前年度比 209 百万円減少の 5,244 百万円となった。

## (2)支出の部

学園全体の教職員数は教育力向上のため専任教職員は退職者に対する補充に加え、前年度比 1 名増加、兼務教員は 1 名増加。勤続年数の長い役員・教職員の予算計上外の退職により退職金支出が、予算比 136 百万円増加したため、人件費全体として予算比 123 百万円、前年度比 216 百万円増加の 3,130 百万円となった。

経費については、各部門における節減効果が大きく予算比 160 百万円の大幅減少となったが、前年比では、教育研究経費支出が教育力向上及び学生満足度向上及び奨学金制度の充実等で 61 百万円の支出増、管理経費については節減効果による 27 百万円の支出減となり教育研究経費、管理経費合わせて 34 百万円増加の 1,355 百万円となった。

施設、設備関係支出では、校地購入、校舎増築、校舎内外の改修、備品の更新等、教育環境充実の為の投資を積極的に実施したが、予算比 90 百万円、前年度比 5 百万円減少の 366 百万円となった。

## (3)繰越支払資金

上記の結果、期中の支払資金は 502 百万円の増加となり 6,852 百万円となった。

## B【消費収支計算書】

## (1)消費収入の部

資金収支計算書、収入の部で説明の如く納付金・手数料の減少、補助金・資産運用収入の増等の要因により帰属収入の合計は予算比 40 百万円増加、前年度比では 61 百万円減少の 5,387 百万円となった。校舎改修等による基本金への組入が 128 百万円あり、消費収入合計

は予算比 218 百万円の増収、前年度比 114 百万円増収の 5,258 百万円となった。

## (2)消費支出の部

資金収支計算書、支出の部で説明の如く人件費については予算比 61 百万円、前年度比 144 百万円増加の 3,109 百万円となった。経費については削減効果により予算比 146 百万円の減少、前年度比 19 百万円増加の 1,819 百万円となり、消費支出合計では予算比 126 百万円の減少、前年度比 171 百万円増加の 4,938 百万円となった。

## (3)消費収支差額等

上記より当年度消費収支差額は予算では 23 百万円の支出超過であったが 321 百万円の収入超過となり、翌年度繰越消費収入超過額は 2,110 百万円となった。

なお帰属収支差額は 449 百万円の収入超過となり引き続き健全財政を維持した。

◆◆◆主要財務比率の経年比較表◆◆◆

	算式(×100)	H19 年度 (決算)	H20 年度 (決算)	前年度比	(ご参考) 全国平均※ (H19)
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	54.4%	57.7%	3.3%	51.4%
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{納付金}}$	65.2%	70.0%	4.8%	71.7%
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	23.1%	24.3%	1.2%	29.7%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	9.8%	9.5%	-0.3%	8.7%
帰属収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	87.5%	91.7%	4.2%	92.6%
消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	92.6%	93.9%	1.3%	108.3%
学生・生徒等納付金比率	$\frac{\text{納付金}}{\text{帰属収入}}$	83.4%	82.5%	-0.9%	71.6%
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$	11.3%	11.6%	0.3%	12.1%
減価償却費比率	$\frac{\text{減価償却費}}{\text{消費支出}}$	10.1%	9.4%	-0.7%	11.4%

※大学法人(医療系法人を除く)全国平均「平成 20 年度版 今日私学財政」より

## C【貸借対照表】

### (1)資産の部

固定資産のうち建物は、高校 2 号館 1 F 多目的室を大学講義室への改修工事、短大の 3 講義室の AV 設備工事、大学本館 1 F のブックストア設置工事があった。構築物は、幼稚園の正門、門扉設置工事等があったが、減価償却により減少。

流動資産の増加は、現金預金の増加によるもの。以上の要因等により、資産総額は前期末比 409 百万円増加の 23,527 百万円となった。

(2)負債の部

退職給与引当金及び前受金の減少により、負債総額は前期末比 39 百万円の減少。

(3)基本金の部

大学講義室増設等による 1 号基本金組入に対し、備品の過年度簿外処理分の減額もあり、全体では 128 百万円の純増となる。

(4)消費収支差額の部

消費収支計算書の部で説明の如く、翌年度繰越消費収入超過額は、前期末比 321 百万円増加し、2,110 百万円。なお純資産は前期末比 449 百万円増加の 21,554 百万円となった。

D【今後の課題】

少子化の影響が出始めた中で、平成 20 年度決算において帰属収支差額 449 百万円（同比率 8.3%）を確保できたことは評価できる。

今後の課題として前年比においても学生・生徒数、志願者数とも減少傾向にあり、学生・生徒等の募集をどのように行い、学生・生徒数を確保するかが緊急の課題である。

教育の質の向上、学生サービス向上のためのハード及びソフトについての投資は引続き積極的に推進する。

管理運営体制においては内部統制及び内部牽制の一層の強化が望まれる。

学園創立 70 周年に向けて策定された「中長期計画」に基づき、経営基盤の安定を図りながら経理執行を行い、計画の達成を図ること。